

『日に新たに』

令和8年度 校長室便り
(9月1日)(第11号)



「熊本災害ボランティア 体験記」

8月10日(月)用事があって熊本市に向かいました。朝の6時台に八代市を通過できるなら災害支援車両の迷惑にはならないだろうと考え、垂水を朝の3時半頃出発しました。出水市に17年間住んでいたもので、八代市周辺の道には通じていました。

水俣経由で八代に入りました。田浦町辺りからブルーシートに覆われた家が目立ち始めて、日奈久に入ると傾いたり倒れたりしている家屋が増え始めました。八代では国道3号線は避けて、う回路を通りましたが、目にする光景に絶句。道沿いでも1階までペチャンコに潰れている家を多く目にしました。住んでいた方は無事だったのだろうかとか心配しながら進みました。

10日は熊本市内に宿泊し、11日(火)朝早く熊本を出発し、九州自動車道の松橋インターで降りて、氷川町・八代市と向かいました(松橋からえびのまでは九州自動車道はまだ通行止めでした)。

煙突の倒れた製紙工場の横も通過し、心の中で手を合わせました。垂水に帰ってきてからも、倒れた家屋の映像がどうしても頭から離れず、何かできることはないのか自問自答の繰り返しでした。

インターネットの熊本県の社会福祉協議会(ボランティアセンター)のホームページを見ていて8月21日(金)氷川町のボランティアにまだ空きがあることを知り、早速申込みました(ボランティア活動も予約が必要です)。

「ボランティア活動の準備」

予約はしたものの何を準備してよいのかわかりません。早速、社会福祉協議会のHPに掲載されている「ボランティア入門」のYouTube動画を見ました。帽子やヘルメット、雨靴や釘等を踏んだ時のためのインソール、長袖や熱中症予防の飲み物やアメ類、トイレが使えない時のための簡易トイレや凝固剤等、荷物が多くなる予感がしてきました。

Youtubeでも「現地の状況」を把握することが一番大事と言っていたので、迷惑とは思いつつも社会福祉事務所のボランティアセンターに前日電話を入れてみました。

ボランティアセンター(集合場所)では、トイレは設置してあるものの、現場ではトイレが使えないため必要最小限のものは準備しておいた方がよいこと、とにかく暑いので、飲み物等多く準備した方がよいこと等の助言が得られました。

また、ボランティア活動の目的で高速道路を利用する場合は、ホームページからNEXCO各社の「災害ボランティア車両高速道路通行証明書発行システム」にアクセスし、必要事項を入力して通行証明証を印刷し、当日料金所で身分証明書と共に提示すれば、無料になることもわかりました。

小さなクーラーボックスに、昼食(おにぎり)と多めの飲料水を入れて、多めの着替えとウェットティッシュや簡易トイレ・凝固剤、上履き等、考えられる物を準備して、21日(金)朝早く垂水を車で出発しました。

実際は、ボランティアセンターで飲み物等(かき氷も)の必要なものは準備されていました。

「午前の活動」

垂水を朝の5時半に出発して、九州自動車道を経由して9時前には、ボランティアセンターに到着しました。氷川町のボランティアセンターは、



氷川町役場横のゲートボール場になっていました。ボランティアの駐車場は、竜北中学校の校庭が割り当てられていました。

受付は、事前に登録していたので、二次元コードを読み込んで入力し簡単に終わりました。ボランティア活動は、必ず保険に入らなければ活動できません。私は、社会福祉協議会のHPで案内された保険にインターネットで事前に加入していたので、必要な手続きはすぐに終わりました。

9時になり、希望する班に分かれて係の方から説明を受けました。1つの班が10人編成になります。被災された家の様子や注意事項、仕分けでわからない時の対処方法等の説明を受けて、班長・副班長を決めて、車の乗り合わせを決めてから現地へ出発。災害廃棄物を資材置き場に搬入するために、各班ごとに軽トラックが2台割り当てられました。

午前中は、11時半頃を目安に活動することになっていました。老夫婦のご自宅で外見は大丈夫そうに見えましたが、中は足の踏み場もない状態。使えなくなった家財を運び出し、使えなくなった物を袋に詰めて搬出し、外では落ちた瓦を集めました。

35度を超える猛暑の中で、15分の活動のあと必ず休憩し、それを繰り返すことで予定された時間内であっという間に片づけました。人手が大事です。

ボランティアができるのは、処分する物の片づけだけです。残った荷物の仕分けは、ご家族がすることになります。あれだけ大量のものを高齢のお二人でどう仕分けするのだろうかとか心配しながら、ボランティアセンターに戻らざるを得ませんでした。

センターに戻り班ごとに昼食を取りました。班員の出身もそれぞれで、栃木や長崎から参加された方、熊本市内の職場から団体での参加された方、鹿児島からは私ともう一人おられました。

「午後の活動」

午後の活動場所は、ボランティアが初めて入る家と聞いて、みんな緊張しました。そのため、2班が導入されました(軽トラックも4台)。



入ってみて言葉が出ませんでした。中も外も壁は崩れていて玄関には「要注意」の張り紙。家主さんの指示で、ボランティア全員で手際よく搬出作業と掃除に取り組みました。雑誌や本は資源ごみになるために、勝手に搬出できないことも初めて知りました。家に残された物はゴミではなく、家主にとってはどれも「大切な思い出」です。仕分けには当然時間がかかります。それを覚悟して活動することの大切さを学びました。

「活動を終えて」

初めて出会う人でも、1つの活動をすることで一体感が生まれ、自然と心が通じ合います。「地震を体験してもう終わったと思った」と話す地元の方、今日で4日目と言う長崎の方、「明日まで活動して鹿児島に立ち寄ってから関東に帰ります」という栃木の方、話を聞いて学ぶことが多かったです。10年前に娘が熊本の大学に入学して震災に遭いました。恩返しのつもりが逆に元気をもらいました。